

CONTENTS

• MIDI規格委員会報告	1~2
• 製品安全・環境委員会報告	3~4
• MIDI検定実施報告	5
• 早稲田大学講義でのオンライン講義について	6~7
• AMEI会員名簿・国立国会図書館「インターネット資料収集保存について」	8

委員会活動報告

MIDI™ MIDI2.0規格審議リスト

Letter of Agreement Title/Related Items	Version	AMEI Sign
MIDI2.0 Specification Overview MIDI2.0 Specification Overview MIDI Capability Inquiry (MIDI-CI) Common Rules for MIDI-CI Profiles Common Rules for MIDI-CI Property Exchange Universal MIDI Packet (UMP) Format and MIDI 2.0 Potocol	Version 1.0	2020/2/22
MIDI Capability Inquiry (MIDI-CI) Bidirectional Negotiations for MIDI Devices	Version 1.1	2020/2/22
Common Rules for MIDI-CI Profiles	Version 1.0	2020/2/22
Common Rules for MIDI-CI Property Exchange Common Rules for MIDI-CI Property Exchange	Version 1.0 Version 1.1 RC6 Version 1.1	2020/2/22 2020/12/11 2020/12/11
Common Rules for MIDI-CI Property Exchange		
Universal MIDI Packet (UMP) Format and MIDI 2.0 Protocol	Version 1.0 RC6	2020/2/22
MIDI-CI Property Exchange Foundational Resources: DeviceInfo, ChannelList, JSONSchema	Version RC6	2020/7/18
MIDI-CI Property Exchange Foundational Resources: DeviceInfo, ChannelList, JSONSchema	Version 1.01 RC9	2020/9/29
MIDI-CI Property Exchange Foundational Resources: DeviceInfo, ChannelList, JSONSchema	Version 1.01	
MIDI-CI Property Exchange Mode Resources: ModeList, Current Mode	Version RC6	2020/7/18
MIDI-CI Property Exchange Mode Resources: ModeList, Current Mode	Version 1.01 RC9	2020/9/29
MIDI-CI Property Exchange Mode Resources: ModeList, Current Mode	Version 1.01	
MIDI-CI Property Exchange ProgramList Resource	Version RC6	2020/7/18
MIDI-CI Property Exchange ProgramList Resource	Version 1.01 RC 11	2020/9/29
MIDI-CI Property Exchange ProgramList Resource	Version 1.01	
MIDI-CI Property Exchange Channel Resources: ChannelMode, BasicChannelRx, BasicChannelTx	Version 1.0 RC2	2020/9/29
MIDI-CI Property Exchange LocalOn Resource	Version 1.0 RC2	2020/9/29
MIDI-CI Property Exchange MaxSysex8Streams Resource: ChannelMode, BasicChannelRx, BasicChannelTx	Version 1.0 RC2	2020/9/29
MIDI-CI Property Exchange Get & Set Device State StateList Resource State Resource	Version 1.0 RC1	2020/11/11
MIDI-CI Property Exchange ExternalSync Resource	Version 1.0 RC1	2020/11/11
MIDI-CI Profile : Default Control Change Mapping	Version 1.0 RC1 Version 1.0	2020/12/11

上記の表は、これまでに AMEI にて承認された MIDI2.0 の基本規格とその更新リストであり、現在は、Piano Profile/Organ Profile/SMF2 等、様々な拡張機能について審議されています。

MIDI2.0 規格報告

MIDI 規格委員会 飛河委員長

MIDI1.0 規格は 1982 年に公開され、その後 40 年近い年月を経て、2020 年 2 月 22 日に新たに MIDI2.0/MIDI-CI 規格が AMEI と MMA (MIDI Manufacturers Association) は現在、The MIDI Association という名称で活動

しており、最近では MA と呼んでいます。AMEI と MA では MIDI2.0 の新たなロゴをデザインいたしました。

MA は新たな団体ロゴ※としてすでに MIDI2.0 のデザインを使用しており、AMEI でも国内で商標登録を申請中です。



MIDI2.0 は、これから何十年にもわたって電子楽器や音楽シーンをはじめ様々な分野にて多くの人々に使っていただくことを目的に制定しました。

現在、MIDI 規格委員会の MIDI2.0 部会ではプロファイルと称し、様々なユースケース、カテゴリーごとに個別の詳細な規定を定める作業を行っています。今後はプロファイルごとに新商品や新規分野の開拓が行われているものと確信しています。また、MIDI2.0 で記述されたメッセージをファイルとして保存するための新たな SMF (現在は仮称で SM2F と呼んでいます) の制定のためのワーキンググループも発足しました。これから新たなカラオケや電子楽譜、DAW の世界で標準ファイルフォーマットとして用いられる時代がくると期待しています。MIDI2.0 の世界における General MIDI のような概念も生まれてくるものと思います。MIDI 規格委員会 / MIDI2.0 部会ではこれらのプロファイルやフォーマットを検討するワーキンググループができており、随時メンバーを募集していますので、MIDI の新たな未来世界を覗いてみたい方はぜひご参加ください。来年はコロナの世界的な混乱もある程度落ち着きを取り戻し、2022 年 1 月の NAMM では MIDI2.0 に関する

2 周年イベントやデモも開かれるのではないかと期待しています。また従来の MIDI1.0 規格は MIDI-CI による互換性の維持とともに、これからも存続しますので、MIDI1.0 部会も現在の市場課題を解決しながら、引き続き活動を行っています。

AMEI 会員の皆様のご支援、ご指導を賜りつつ、世界標準として今も多くユーザに使われている MIDI 規格を通じて、多くの方に音楽の楽しみをもたらし、新しい音楽文化の創造・発展に貢献していければと思っています。

一方、MA のプレジデントの Craig Anderton さんと、AMEI の伊藤公保会長のサインのもと、AMEI と MA の間で初の相互機密保持契約が 2021 年 3 月 26 日に締結されました。今後は会員間の知的財産やノウハウ、情報に関する取り扱いの考え方について、MA と AMEI でお互いに異なる現状を同じ内容になるように IP ポリシーを合わせていく作業が必要となっています。

以下に令和 3 年度の AMEI MIDI 規格委員会の組織と MIDI Association の組織について紹介させていただきます。

一般社団法人音楽電子事業協会 MIDI 規格委員会

(専門委員会)

MIDI 規格委員会	
委員長	飛河 和生
副委員長	奥原 俊彦
	水本 浩一
	奥村 貴宏

(部会 / Working Group)

MIDI1.0 部会	
部会長	奥原 俊彦
MIDI2.0 部会	
部会長	三浦 大輔

SMF2-WG	
MIDI 規格委員会 著作権・ソフト委員会 普及委員会 合同 SMF2 ワーキンググループ	
リーダー	上杉 尚史

The MIDI Association

MIDI Association : Executive Board member

Craig Anderton (MIDI Association President)
Athan Billias (MIDI Association COO)
Pete Brown (Microsoft)
Brett Porter (Art & Logic)
Kate Stone (Novalia)
Jean-Baptiste Thiebaut (Music Hackspace)
Yitian Zhao (CME)

MIDI Association : Technical Standards Board member

Florian Bomers (Bome Software)
Rick Cohen (Kurzweil) - TSB chair
Amos Gaynes (Moog Music)
Chris Grigg (Chris Grigg Designs)
Mike Kent (MK2 Image)
Dave Starkey (MIDI9)
Joe Zhang (Medeli)

製品安全・環境委員会報告

WEB 座談会

司 会：AMEI 専務理事 水野滋
参加者：製品安全・環境委員会 委員長 浅賀善和
製品安全・環境委員会 副委員長 金原正人
製品安全規格部会 令和元年度部会長 齋藤雅之
環境問題研究部会 令和2年度部会長 片岡茂樹
(以下敬称略)

プロローグ

水野：皆さんお忙しいところ WEB 座談会にご参加いただきありがとうございます。

AMEI は設立が平成 8 年 4 月 1 日ですので、満 25 歳になりました。設立当時のことをご存じの方も次第に減ってきますから、この機会に製品安全・環境委員会について記録に残しておきたいと思いお集り頂きました。まず皆さんの AMEI との関わりがいつ頃からか伺いたいと思います。

浅賀：AMEI に参加したのは平成 22 年 1 月の環境問題研究部会からで、残念ですが設立当時のことは殆どわかりません。

金原：最初に安全規格部会に参加したのは、設立した平成 8 年の 10 月からです。参加が設立直後だったので、その頃の様子はだいたいわかります。AMEI 一筋 25 年と言いたいところですが、会社の業務の関係で 2 回ブランクがあります。

齋藤：平成 18 年の年末の合同部会で前任者から引き継ぐ挨拶をしてからの関りなので、それ以前のことはあまり知りません。

片岡：平成 24 年度からの参加なので私が一番最近です。設立の頃のことはわかりません。

設立の経緯と組織名の変遷

水野：そうですね。メンバーも入れ替わりますし、もう 5 年 10 年経つと初期の頃を知る現役世代はいなくなってしまいますね。せっかくお集り頂きましたし、ご存じの範囲でお聞きしたいと思います。製品安全・環境委員会設立の経緯についてご存じのことはありますか？

金原：安全に関しては長い歴史があります。昭和 50 年に電子楽器が電取法の乙種から甲種への規制強化の動きがあり、甲種で必要な型式認可や工場検査などの負担の増加を防ぐため、電子電気楽器メーカー有志が資源エネルギー庁技術課に相談に行ったのが発端だそうです。AMEI の前身の一つの全国電子電気楽器協会を結成し、業界として安全確保に取り組むので規制強化は必要無いとアピールしたおかげで甲種の話は立ち消えとなりました。組織名は数度変わりましたが、活動は現在の製品安全規格部会まで続いています。

水野：なるほど安全は AMEI 設立 20 年以上前からの活動が継続しているのですね。環境問題研究部会についてはいかがでしょう？

金原：環境がいつ頃から活動していたかは承知していませんが、平成 8 年 6 月に環境問題研究部会が「電子楽器 製品アセスメントマニュアル」を発行しているので設立前から活動していたことがうかがえます。その冊子を見て思い出したのですが設立当時はハードウェア委員会でしたが平成 16 年度に製品安全・環境委員会に名称変更しています。

浅賀：ハードウェアでは活動内容が明確でないので具体的な名称に変更したのでしょうか。今の名前なら安全と環境を扱っていることがわかりますからね。

金原：ちなみに環境問題研究部会は設立当時から変わりませんが、組織図で安全規格部会は平成 26 年から製品安全規格部会に変わりました。しかし活動報告などでは相変わらず安全規格部会と書かれていたりします。

齋藤：委員会の名前に製品安全とあるのでそれに合わせたのでしょうか、長い間使い慣れた呼び名はなかなか変えられないですね。

金原：ところで音楽電子産業協会が平成 8 年 1 月に発行した「LVD (低電圧指令) 対応ガイド」で AMEI のロゴと Association of Musical Electronics Industry の英語名称が使われていました。全国電子楽器協議会作成の「電子楽器の雑音の強さ測定方法」では JEMIA でしたから、AMEI を使い始めたのは 1994 年の音楽電子産業協会設立以降だと思いますが正確な時期はわかりません。

齋藤：組織名が変わっても英語名称もロゴも変わらないって、日本工業規格から日本産業規格に変わった JIS みたいですね。いや AMEI が先を行っていたのか (笑)

ガイドライン等

水野：いろいろ文書名が出てきますが、当時は盛んに発行されていたのでしょうか？

金原：初期の頃は情報収集の手段が限られているので、各種規制を電子楽器業界に合わせてまとめたものは大変貴重なものだったと思います。完成すると立派な表紙を付けて製本し各社に何部か配っていました。LVD ガイドの前書きに昨年 EMC 指令のガイドを作ったとありますし、作成が必要なテーマがあれば年に一つくらいのペースで作っていたと思います。

水野：最近そうした文書は出ていないですね。

金原：最近では情報過多で必要な情報を見つけ出すのが大変なので、全ての規制の解説を作る必要はなくなりましたが規制対応に AMEI の統一見解を示す必要があれば作る意味はあると思います。私が関与したのは EMC-01 の改定と EuP 指令対応ガイドラインしかありません。

水野：それらの文書のエピソードはありますか？

金原：元々の EMC-01 作成のきっかけとして、電気用品の雑音測定の技術基準の見直しで電気電子楽器の適用章別を第 5 章「電熱器具、電動応用機器及び配線器具等」から第 4 章「デジタル技術応用機器」に変更する動きがありました。

水野：5 章から 4 章に変わるとどのような影響があったのですか？

金原：5 章は CISPR14 整合で雑音端子電圧と雑音電力、4 章は CISPR22 整合で雑音端子電圧と雑音電界強度なので、雑音電力測定が電界強度測定に変わります。

齋藤：雑音電力から電界強度に変わると試験に通りにくくなりそうですね。

金原：それが嫌で電気電子楽器はデジタル技術応用機器ではないと主張しましたが、シーケンサは楽音を扱わないので AV とは認められませんでした。結果として技術基準の分類が電子オルガンと電子楽器周辺機器は 5 章、ミュージックシーケンサは 4 章になったのですが、ミュージックシーケンサ以外の各種電気電子楽器は全て 5 章の測定とするために作成されたのが EMC-01 でした。

齋藤：なるほど、そんな経緯で作成されたのですね。

金原：AMEI となって 2 年くらいした頃、組織名が AMEI になったのに JEMIA 規格のままではおかしいので AMEI に変えたものを出し直そうという話になり、当時は部会で一番若かった為、改訂版の原稿を作ることになり、紙の元原稿から本文 18 ページ

を手打ちしました。

齋藤：組織名の変更のためだけにでは大変な作業でしたね。

金原：今考えると適用章別以外は電取法の技術基準のままなので、章別の説明の他は電取法技術基準参照にすれば2ページくらいで済んだのですが・・・

水野：EuP ガイドラインについてはいかがでしょう？

金原：2005年に枠組み指令のEuP指令（現在のErP指令）が発効し、2008年頃から電子楽器に関係する「Lot6（待機電力）」や「Lot7（外部電源）」の要求が出てきたので対応の検討が必要になりました。Lot6のパワーマネジメントの要求を見た時に、一定時間の無操作で自動的にオフやスタンバイに移行する時間の統一指針があれば悩まなくて済むと思い、当時の安全部会長の田中さんにガイドライン作成を提案しました。田中さんから環境部会長の戸田さんに持ち掛けていただき製品安全環境委員会として作成することになりました。

片岡：EuP ガイドラインには私も参加させていただきましたが、パワーマネジメントの時間設定ではコンサートのリハーサルで午前中に設定して夕方の本番前に切れて消えたら困るとかいろんな意見が出ましたよね。結局テレビの要求の4時間以内より長いのはおかしいということで最長でも4時間ということに落ち着いたんですよ。

金原：出張の必要が無い様に浜松メンバーだけで作ろうということになったのですが、戸田さんが社内で一番詳しいからと委員ではない片岡さんに声をかけたんですよ。ほとんど片岡さんから頂いた情報を元に検討したと記憶しています。建前上は委員会作成なので作成者は当時の委員になっていて名前はありますが片岡さんの貢献が大きいですよね。

片岡：構造等については皆さんの知見に頼っていたので、私一人が貢献したわけではありません。

設立当時の部会の様子 - 外部団体への働きかけ

水野：設立当時の部会の様子は何か今と違っていたでしょうか？

金原：コミュニケーション手段が電話やFAXの時代でしたから情報収集が大変でした。初代の安全規格部会長だった末次さんはボランティア精神にあふれた方で、商売では競争しても安全に関する知識やノウハウは積極的に会員に横展開する方でした。ほぼすべての資料を集め、コピーを配り、説明して終わる独演会のような感じで、今考えても感謝しかありませんが、後継者のハードルが高くなってしまったかも知れません。そういえば当時は甲種指定を防ぐ対策の名残りで自主依頼試験もやっていました。

水野：そういえば、日本で容器包装リサイクル法が施行される2000年頃だったと思いますが、商品開発部門に在籍していた頃、環境委員会に参加させて頂きましたが、当時の八木部会長も戸田部会長も出席者分のコピーを作成し、詳細説明をして頂き、大変助かりました。

ところで自主依頼試験とは、現在実施されていませんが、どんな試験だったのですか？

金原：電気用品取締法の要求にはありませんでしたが、自主的に技術基準への適合確認試験を試験所に依頼する型式試験に準じた試験です。業界の安全確保に取り組みを示すために、AMEIから補助金を出して実施していました。安全性の改善が進んで必要性が減ったため出検件数が減り、補助金の予算も削られ、いつの間にかやらなくなってしまいました。

齋藤：経済産業省の電気用品安全法の買い上げ試験があっても電子楽器業界の不適合が無いのは自主依頼試験や情報交換などの活動を続けてきた成果でしょうね。設立当時ではありません

が電取法の甲種回避以外にもCISPR 35の附属書E楽音発生機能に電子楽器の事情を考慮した条件を入れたり、IEC60065の附属書Eのオーディオ増幅器の動作条件を明確にしてもらったりしましたね。それから電安法の音声利用の遠隔操作で危険が生じる恐れのないものに音響機器があるから電子楽器も入れるようにAMEIとして経産省にお願いに行ったこともありますね。

水野：事務局として私も同行したのですが、言いたいことはわかるが修正作業でスケジュールを遅らせるほどの必要性は感じられないと却下されました。案を作成するワーキンググループに参画して案が出来る前に修正の働きかけをすることが重要だと感じました。

浅賀：そうした働きかけとしては消音ピアノのエコマーク取得事案というのがありました。弊社営業発起の事案だったのですが、他社のご理解を得るためAMEIにて取り上げていただきました。AMEIに参加したばかりの自分は、弊社でAMEIの窓口を務められていた宮間さん、当時の部会長である戸田さんと日本環境協会エコマーク事務局へ足を運んだことを思い出します。

エピソード

水野：話は尽きませんが紙面の都合もありますので、最後に設立時にはこだわらず何でも良いのでお願いします。

浅賀：REACHのSVHCも半年ごとに追加されますし、米国TSCA改正の様に突然対応が必要な事案も発生します。今後も情報収集に努めて部会で情報発信することにより会員各社のコンプライアンス遵守に貢献できたらと思っています。

片岡：AMEI NEWS No.63に寄稿したワシントン条約（CITES）COP17におけるローズウッド完成品の附属書Ⅱへの追加について補足させていただきます。2017年1月の施行以降、ギター等の楽器の輸出入手続きに多大な影響が出ました。ミュージシャンへの影響も大きいので何とかならないかと思っていましたが、各関連団体、メーカー、関係者の要望により、2019年開催のCOP18で楽器が除外されて収まりました。希少生物の保護、持続可能性について考えさせられる案件だったかと思います。

金原：東京で部会から浜松に帰る新幹線の車中での他社の委員との雑談で、部会でもしにくいここの話の相談をして結構役に立つことがありました。また以前は年末に環境と安全の合同懇親会で親睦を深め相談しやすい雰囲気作りに役立っていたと思います。現在は懇親会どころか出張もままならない状況ですが、早くコロナが沈静化してそうしたコミュニケーションが出来るようになって欲しいものです。

齋藤：規格についていろいろな判断に迷う時、認証費用が掛かることを社内に説明する時、意匠に影響を与えるような警告表示が必要な時など、いろんな場面でAMEIの部会の情報、意見、ガイドラインは役に立っています。情報収集能力はあまり高くないですが、情報を頂くばかりではいけないので、出来るだけ提供するようにしていきたいと思っています。

水野：いろいろなお話を大変楽しく聞かせていただきました。今回は、普段あまり表に出ないAMEIの製品安全・環境委員会のルーツを辿ってレポートをお願いし、これまでの活動を振り返って、電子楽器が生まれて、家電製品として市場に参入する為、各種安全規格・環境規格をクリアし、一般家庭に、あるいは輸出流通に乗るまでのストーリーを振り返って頂きましたが、お互い競合メーカーでありながら、両部会とも25年間123回の会議を通して、電気・電子楽器製品の安定供給と品質管理に協力されている姿勢には、とても感銘を受けました。本日は誠にありがとうございました。

全員：ありがとうございました。

MIDI 検定試験実施結果報告

MIDI 検定指導研究委員会 上杉 尚史

令和2年度のMIDI検定事業は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受ける年度となってしまいました。昨年4月に発せられた1度目の緊急事態宣言が延長されたため、例年5月に実施しておりました4級指導者講習会を6月に延期いたしました。3級指導者講習会、2級指導者講習会は例年通りのスケジュールで実施いたしました。元々4級指導者講習会を受講された方への講習会ですので、こちらの参加者も減少しております。

また、12月の2級3級筆記試験に関しては、3密を避けるという観点から一般受験者用の会場を確保することが出来なため、一般受験を中止して専門学校等で実施される団体受験のみといたしました。これにより3級で受験者は半数以下、2級においては1/10に近い受験者となり、その後の2級2次試験受験者数にも大きく影響が出ました。

しかし、本年度は新たな取り組みも始めており、MIDI検定のオンライン化に関して様々な実験を行い、一部のオンライン化に成功しています。

まず始めに行ったのが、4級認定指導者が実施するMIDI検定4級試験について、問題の映像化に取り組みました。これにより音楽教室などで受験者を教室に集めなくても、オンライン会議システムを用い、自宅から受験を行うことが可能となり

ます。現状は受験者が解答用紙に解答を記載し、それをスマートフォンなどで写真に撮ったファイルを提出させ、後日回収する原本との相違（書き換え）が発生していないことを担保する方法をとっています。受験中はカメラをオンにし、不正のチェックにあたるというルールも設けました。この方法では、小規模な音楽教室などで生徒向けに行う場合には不都合が起きないのですが、不特定多数が受験する筆記試験等では課題もあります。オンライン会議システムを使用した場合、受験者同士の顔や名前が画面に表示されてしまうため、プライバシーの保護が難しいという点です。そこで、2級2次試験での筆記試験においては、カメラを排除し、ウェビナー形式での試験を実施しました。もちろんカンニングなどの不正行為も懸念されるのですが、2級2次試験の問題はそもそも譜面を見て答える問題ですので、試験の公平性に関する問題はありませんでした。

現在、令和3年度の2級3級筆記試験をどのようにオンライン化するかを検討していますが、プライバシーの保護と不正防止の二つの観点が一番大きな課題となっています。しかしながら、郵送を省き、オンラインでのデータ提出など、オンライン化によって運営の効率化ははかれますので、これを期に大きな改革を進められればと考えております。



MIDI 検定試験結果の推移 (国内)

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	累計
		第 16 回	第 17 回	第 18 回	第 19 回	第 20 回	第 21 回	第 22 回	第 23 回	
3 級	実施日	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	
	受験者数	12/1	12/7	12/6	12/4	12/3	12/2	12/1	12/6	
	(内学校)	514	526	493	512	470	525	472	242	26634
	合格者数	298	326	301	242	229	295	259	242	13557
	合格率	261	271	308	378	297	276	303	142	17995
2 級 1 次	合格率	50.78%	51.52%	62.47%	73.83%	63.19%	52.57%	64.19%	58.68%	67.56%
	第 15 回	第 16 回	第 17 回	第 18 回	第 19 回	第 20 回	第 21 回	第 22 回		
	実施日	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	
	受験者数	12/1	12/7	12/6	12/4	12/3	12/2	12/1	12/6	
	合格者数	124	117	143	139	182	138	118	18	6270
2 級 2 次	合格率	30	73	91	67	139	96	73	12	3173
	合格率	24.19%	62.39%	63.64%	48.20%	76.37%	69.57%	61.86%	66.67%	50.61%
	第 15 回	第 16 回	第 17 回	第 18 回	第 19 回	第 20 回	第 21 回	第 22 回		
	実施日	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	
	受験者数	2/22 ~ 24	2/21 ~ 23	2/20 ~ 22	2/18 ~ 20	2/24 ~ 26	2/16 ~ 18	2/15 ~ 17	2/20 ~ 22	
1 級	合格者数	45	78	92	65	88	71	52	24	3642
	合格率	21	33	62	39	47	43	30	15	1414
	合格率	46.67%	42.31%	67.39%	60.00%	53.41%	60.56%	57.69%	62.50%	38.82%
	第 5 回	第 6 回	第 7 回	第 8 回	第 9 回	第 10 回	第 11 回	第 12 回		
	実施日	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	
国内受験者合計	受験者数	8/9 ~ 19	8/8 ~ 18	8/7 ~ 17	8/12 ~ 22	8/11 ~ 21	8/10 ~ 20	8/9 ~ 19	8/7 ~ 17	
	合格者数	43	27	34	43	32	40	33	31	603
	合格率	9	14	10	17	9	26	16	6	197
国内受験者合計	合格率	20.93%	51.85%	29.41%	39.53%	28.13%	65.00%	48.48%	19.35%	32.67%
	国内受験者合計	726	748	762	759	772	774	675	315	37149

早稲田大学講義でのオンライン講義について

著作権・ソフト委員会 副委員長 堀江 康明

1. はじめに

著作権・ソフト委員会では、2008年から毎年、早稲田大学理工学術院と「国際コンテンツビジネスと著作権」という連携講座を実施しております。著作権をはじめとする法律の知識やコンテンツビジネスの市場動向について解説をし、音楽サービスの適法利用を促したり、エンターテインメントコンテンツとその周辺ビジネスに興味を持たせたり、AMEIの活動について理解を広げること目指して取り組んでおります。毎年50～100名の学生が受講をしております。

2020年度の講義は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、全面的にオンライン形式で行うこととなりました。通常の対面授業と違い、学生の学習状況や講義内容への反応について、つぶさに把握することが困難な状況がありましたので、何度かWebアンケートや小テストを行うことで、この状況の解決に努めました。その一環として、以下のようなWebアンケートを実施しました。

課題

一般社団法人音楽電子事業協会（AMEI）のHPを見て、
会員にどんな企業がいてかを調べなさい。
その会員企業の会社概要や事業内容を参照して、
AMEI自体もしくは興味をもった1社について、興味を持った点を答えなさい。

従前の講義においても同じ質問をアンケートではなく、レポート課題として課していました。AMEIの活動内容や会員の事業について、より広く深く知って欲しいという思いがあったために、ライトなアンケートではなく、少しヘビーなレポート課題としていました。しかし、学生にとっては、課題＝評価の対象という意識が強かったためか、AMEIのホームページ掲載の会員社の名前を羅列した内容や、組織概要をコピーした内容が多く提出されていました。「単位取得のための課題」という印象が強いものになってしまいました。

2. 2020年度の講義アンケートについて

2020年度の講義においては、成績評価に関係するレポート課題ではなく、あくまでも出席確認とともに講義に対する興味を惹起させるWebアンケートとして、同じ設問を設定してみました。そうすると、学生は課題評価を気にしなくて良くなったためか、より自由に、かつ内容を深掘りするような意見が提出されました。前年までと異なり、AMEI NEWSの記事内容に踏み込んだ意見があり、また、各社のホームページを見て興味を持ったこと、特に就職活動をする学生がどのようなことに興味を持っているのかがよく分かる内容になっていました。少し読みやすくコメントを整理しましたので、ご紹介させていただきます。

会社名・団体名 ※アルファベット・50音順
コメント内容

○ AlphaTheta 株式会社

・「Pioneer DJ スクール」というDJを育成するレッスンに興味を持ちました。機材は無料で貸し出され、基本操作から教えてもらうことが出来るというものです。DJは歌を歌うよりもハードルが高く、DJ機材ビジネスは難しいと思いましたが、ハードルを下げる活動をしていて、理にかなっていると感じました。

○ AMEI

・MIDI2.0はMIDI1.0の機能に加え、演奏の表現力や再現性が向上された規格です。38年ぶりのMIDIの更新であるため、拡張された機能に興味があります。
・MIDIについて相当便利だと分かりました。機械系は技術の向上が速い分野なので、MIDI規格の研究や調査は常に最新の情報を伝えることに繋がると感じました。
・会員には楽器を扱っている企業が多く、楽器を作っている会社が楽器を使っている音楽の実態を調査する活動をするところに興味を持ちました。

・プラスチックに関する規制にも関与しているのには驚きました。環境関連の事業は今後もかなり注視される内容だと思っているので、注目していきたいと感じました。
・電子電気機器のメーカーも十分に製品の安全性について検証を行っています。製品安全・環境委員会がどのような目線で活動を行っているのか気になりました。

○ Apple Japan 合同会社

・スマートフォンを中心とした端末の販売がメインのイメージのあるAppleがどのような観点から委員会に参加しているのに興味を持ちました。

○ 株式会社 nana music

・サイトの誰しもがみなクリエイターという文が現代に合っていると感じました。
・nanaは、録音器具等が無くても音声を綺麗に録音できる上に編集（エコー等）も出来るという良いアプリでした。DAWで作成した曲も投稿出来るのも良い点だと思います。このアプリであれば、その人の投稿からある程度、曲の趣向、技術、演奏レベルが把握出来るのも相まって、より簡単にメンバーを探す事が出来るなと思いました。

○ universe 株式会社

・世界に目を向けた営業支援、開発支援の強化という部分に興味を持った。
・WEBサービスの企画開発を行っているようなので、その中で音楽関連のプラットフォームを作成したということなのかもしれないと考えました。

○ 株式会社インターネット

・音楽制作のソフトウェアや編集・読み上げソフトなどを販売しており、動画投稿サービスに欠かせない技術を取り扱っています。また、これらを小中学校での音楽の授業にも取り入れ、ICTと音楽に活用できるよう貢献している点が興味を持ちました。
・音楽に関するコンピュータソフトウェアの開発、販売、特にVOCALOIDやVOICEROIDに関する事業を行っている点に興味を持ちました。Youtuberの台頭が著しく在宅勤務が推奨される今日において需要に的確な提供を行っていると感じたためです。
・インターネットというワードをそのまま社名にすることに驚きました。

○ 株式会社エクシング

・よく利用するJOYSOUNDの会社ですが、それを応用したロボットアプリなどの開発に興味を持ちました。

○ カシオ計算機株式会社

・電卓や時計のイメージしかなかったため、製品のあゆみのページを見ると1980年代から電子楽器を製造していて驚きました。
・「使う人に最も大切な存在を作り続ける」という、製品ひとつひとつに対して丁寧に向き合う理念に感銘を受けました。
・初めて買ってもらった腕時計がカシオのG-SHOCKでしたし、机の上にある電卓もカシオでした。
・製品情報のメニューで時計類の次に電子楽器であり、トップ画面の一番上部には「カシオがピアノを自由に作る。」と書かれていて、イメージが変わりました。
・計算機や時計を使った時に感じたカシオ製品の利便性は、音楽分野でも幅広く展開されているのだと感じました。分野にこだわらず、広く事業を展開させることにカシオ社の強みを垣間見ることが出来ました。

○ 株式会社河合楽器製作所

・ピアノ製造を原点かつ主力事業とする一方で、教育関連・金属・情報関連事業など、多様な分野に事業展開をしている点に興味を持ちました。体育教室や保険代理店事業等、会社との関連が分からないような事業でも、会社の技術などに関わる点があることが興味深かったです。

○クリプトン・フューチャー・メディア株式会社

- ・サンプルバック / ソフト音源、効果音 / BGM のダウンロード配信等活動をしていて、多くの人が動画や楽曲の制作をできるようになった一因だと思いました。コロナの影響で YouTube の配信、視聴の需要が高まっているので、より一層この会社の活動も活発化すると思います。
- ・クリプトンと言えばボーカロイドソフトウェアを出している会社で有名です。今はサウンド素材や音楽家の支援コンテンツ等でも活動を続けているようです。それ以外にも地域貢献もしているようで、そういえば「初音ミク空港」の話思い出しました。実に面白いです。

○株式会社シーミュージック

- ・株式会社シーミュージックに興味を持ちました。理由は普段何気なく聞いているメロの制作をしていることや、自分の趣味であるゲームの音楽を制作しているからです。

○学校法人尚美学園

- ・最も興味を持ったのはミュージックビジネス学科で、音楽をサポートする職業への学びを重視されていて予想通り著作権の授業も盛り込まれていました。このような学科によって音楽業界の秩序が保たれ発展を促されていることに総じて興味を覚えました。

○株式会社シンクパワー

- ・サブスク音楽配信サービスで定期的に歌詞が表示されることは知っていましたが、同期歌詞の技術を行う専門的な企業があり、様々な企業の技術が集まることで1つのサービスが提供出来ていることを実感できました。
- ・気になった曲をネットで検索すると歌詞を見ることができ、その歌詞を管理している会社があるとは知らなかったため興味をもちました。
- ・「Lyric Jumper」というサービスが非常に印象的で興味深いです。楽曲をトピックごとに分けるというのは非常に面白い視点であるし、知らないアーティストや楽曲を知るきっかけになるのも良いと感じました。

○株式会社ズーム

- ・私が興味を持った点に、ハンディビデオレコーダーがあります。ハイレゾ音質、HD 画質での録音・録画に対応していることが挙げられます。この商品から、企業が信号処理における高度な技術を持ち合わせていることがうかがえ、また、YouTube 等の SNS へのアップロードを見越したものであるという点で、時代のニーズに合わせた商品開発を行っていると感じました。コロナ禍で音楽作品の録音・録画の需要が高まっていることもあり、今後の開発に注目すべき企業の1つだと思います。
- ・興味を持った点として、商品開発・販売の形態があります。国内の会社で開発を行っている一方、生産はすべて EMS 企業に委託しており、主に中国で生産された製品は世界各国の販売店へ出荷される形をとっている点です。これにより高い技術力を維持しつつ、生産コストを抑えて販売できると考えます。

○株式会社鈴木楽器製作所

- ・会社情報欄の中に、「販売ポリシー」という場所を設けて、「転売品や非公式の流通経路による商品の保証は致しません」という内容の文章が流れました。正規のルートで消費者に販売した商品は責任をもって保証する内容であり、製品にそれだけの自信があることは素晴らしいと感じました。社内での教育・統制もとれていることが必要不可欠であると考え、風通しのよい会社であるのだらうなと感じました。また、環境への取り組みや、SNS についても具体的に書かれていて、今の情勢にあった企業だと感じました。

○株式会社第一興商

- ・カラオケ機である DAM を販売している会社で、「ビックエコー」というカラオケ店を全国的に展開しています。それだけでなくストリーミングカラオケ等の WEB コンテンツも提供しており、これからの戦略が興味深いと感じました。

○大日本印刷株式会社出版イノベーション事業部

- ・楽譜を電子化し、アプリ上で楽譜を配信したり、自由に譜面に書き込んだりできる MuseCloud というサービスを展開しています。書籍の販売が落ち込み、厳しい状況と言われる印刷業界でも、新しいテクノロジーを取り入れて、新しい市場にチャレンジしている姿勢が見て取れました。

○バイオニア株式会社

- ・サイクルコンピューターやパワーメーター等サイクルアクセサリに開発・生産をしていたことを知っています。
- ・ホームページに行くともまず目に入るのが未来的な車です。3D マップやデジタルカーナビといったモビリティの開発を行っています。普段利用するものの革新を研究している企業に私は非常に惹かれます。

○株式会社フェイス

- ・「Fan's」と呼ばれる、Twitter アカウントを利用したファンクラブが作れるプラットフォームの提供を開始しました。現代のトレンドを見越して似た特徴のあるファンクラブのサービス提供に着目できる先見の明には興味深いと感じました。
- ・企業理念に「私たちが見ているのは今ではなくこれから」とあり、現在あるものではなくこれからのために 0 から創造する考え方に興味を持ちました。・業務用 BGM とポイントサービスにより店舗運営を支援するサービスに非常に興味を持ちました。

○ヤマハ株式会社

- ・楽器の作成などは有名ですが、オーディオ機器などの開発も行っています。音楽関連の事業から発展して、様々な事業を日本のトップクラスで行えるヤマハは今後も業績の向上が予想できると思います。
- ・一般社団法人音楽電子事業協会の会長がヤマハの役員であるように、活動を重要視しているのだと感じました。
- ・新規事業の取り組みとして挙げられていた「ボーカロイド教育版」という製品に興味を持ちました。
- ・ヤマハと聞くとピアノを思い浮かべる人が多いと思いますが、半導体といった電子デバイスやゴルフ用品事業も行っていて面白いと思いました。
- ・ヤマハ株式会社は、古くから楽器製造を行い、発展させる科学的研究を行っており、音楽などのコンテンツ産業を支える企業である所に興味を持ちました。楽器は音楽に必要不可欠であり、実際に音楽を作る人たちはこれを用いて演奏し、私たちが聴いて楽しむことができます。文化を発展させる重要な役割と考えます。
- ・SYNCRROOM というアプリケーションサービスに興味を持ちました。
- ・家庭用防音室の販売といった音楽に必要なもの全般を作っていると分かりました。
- ・昔からある楽器だけでなく、シンセサイザーやプロオーディオ、ピアノやギター等を再現できるアプリの開発なども行っています。音楽の制作や演奏をヤマハだけでできるようになっています。
- ・電子楽器の演奏データ共有の普及活動していることに驚きました。

○株式会社ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス

- ・中島みゆきさんなどの有名アーティストが所属していて意外でした。

○ローランド株式会社

- ・『VAD506』は見た目アコースティックドラムなのに電子音ということで、とてもほしい製品です。
- ・より良い製品を作るために音質だけでなくデザインやニーズへの対応も追求する企業理念に興味を持ちました。
- ・他の会員のホームページもいくつか見ましたが、「知的財産・ブランド保護への取り組み」をメニューの項目に載せているのはローランドのところだけでした。
- ・スマホ用ライブ配信ツールやワイヤレスヘッドホン等、周辺他分野にも進出しているというのは知りませんでした。

3. 今後の大学講義とアンケートについて

会員各社にとって、自社の広報内容がどのように受け取られているかということは、気になる点だと思います。今回、可能な限りコメントを紹介させて頂きました。参考にして頂ければ幸いです。また、2021 年度の早稲田大学講義においても、同じ web アンケートの実施を予定しておりますので、コメントがまとまりましたらご報告させて頂く予定です。

お見舞い
一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆さまのご健康を
心よりお祈り申し上げます。

会員名簿

50音順 2021年3月2日現在

あ

- AlphaTheta 株式会社
- Apple Japan 合同会社

い

- 株式会社インターネット

え

- 株式会社エクシング

か

- カシオ計算機株式会社
- 株式会社河合楽器製作所

く

- クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
- クリムゾンテクノロジー株式会社

こ

- 株式会社コルグ

し

- 株式会社シーミュージック
- 学校法人尚美学園
- 株式会社シンクパワー

す

- 株式会社ズーム
- 株式会社鈴木楽器製作所
- 株式会社ストーンシステム
- 株式会社スリック

た

- 株式会社第一興商
- 大日本印刷株式会社 出版イノベーション事業部
- ティアック株式会社

な

- 株式会社 nana music

は

- バイオニア株式会社

ふ

- 株式会社フェイス
- 株式会社ぶらあぼホールディングス

や

- ヤマハ株式会社
- 株式会社ヤマハミュージックエンタテインメント
- ホールディングス

ゆ

- universe 株式会社

ろ

- ローランド株式会社

〈正会員会社 27 社〉

* 賛助会員

- 中音公司 (中華人民共和国)
- 株式会社博秀工芸
- 株式会社ミュージックトレード社
- 株式会社リットーミュージック

〈賛助会員会社 4 社〉



WARP (Web Archiving Project) について
ご覧いただいているのは国立国会図書館が保存した2021年2月22日時点のページです。このページに掲載されている情報は過去のものであり、最新のものは異なる場合がありますのでご注意ください。収集時のURLは <http://amei.or.jp/> (外部サイト) ですが、このURLは既に存在しない場合や異なるURLになっている場合があります。

AMEI Association of Musical Electronics Industry
この度、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に罹患された方々には謹んでお見舞い申し上げますとともに、医療関係者の皆さまに心より敬意を表します。

製品安全・環境委員会
Product Safety & Environment Committee

令和3年1月度
製品安全規格部会
オンライン審議

MIDI規格委員会
MIDI Standard Committee

MIDI2.0規格書(英語版)
ダウンロード開始

MIDI検定委員会
MIDI Examination Committee

2020 MIDI検定

普及委員会
Spread Committee

■ 音楽委員会
■ メディアコンテンツ委員会
■ MIDI検定委員会
を統合し各委員会の相互協力により普及啓蒙活動を行う

広報委員会
Public Relations Committee

管理部門
Management Division

著作権・ソフト委員会
Copyright & Software Committee

MIDI2.0規格書は以下の5つの規格で構成されています。
1. MIDI 2.0規格概要
2. MIDI機器間ネゴシエーション(アップデート)
3. ユニバーサルMIDIパケットとMIDI 2.0プロトコル
4. プロファイルの共通規則
5. プロパティ・エクスチェンジの共通規則

What's New Information

国立国会図書館「インターネット資料収集保存事業(WARP)」では、公開者様のご許諾が得られたウェブサイトを収集・保存し、未来に伝える事業を行っております。

○国立国会図書館インターネット資料収集保存事業(WARP) <https://warp.da.ndl.go.jp/>
貴協会ウェブサイト当事業でぜひ収集・保存させて頂きたく存じます。との依頼を受け、以下に掲載されました。

<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11642729/amei.or.jp/>

AMEI NEWS Vol.74 / 2021.6.4

一般社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発行：一般社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒101-0061

東京都千代田区神田三崎町 2-16-9 イービル 4F

TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549

発行人：水野 滋

編集人：石黒士郎(広報委員会)

編集協力：株式会社 博秀工芸

ホームページアドレス：

<http://www.amei.or.jp/>

